

エコアクション21

2023年度

環境経営レポート

＜運用期間:2023年 4月～2024年 3月＞



街にいろどりを。人にときめきを。



第17版作成日 2024年 7月 1日

<環境経営方針>

総合建設業者として、常に環境の改善
を意識し、環境経営に努め、広く社会に
貢献できるようにする。

上記方針を推進するために、以下のことを実施する。

- ① 地球環境保護のため、省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進する。特にCO₂の削減、廃棄物排出量の削減、排水量の削減を行う。また、地域への貢献活動を率先して実施する。
- ② 環境関連の法律を遵守する。
- ③ 環境経営目標及び環境経営計画を策定し、継続的な改善に努める。
- ④ 環境経営システムを構築、運用、取り組みを実施するために効果的な実施体制を構築する。
- ⑤ ICTを活用し作業の効率を図り、環境配慮型施工を推進する。
- ⑥ 全社員に環境に関する教育を行い、地球環境保全及び改善の意識を高め環境に優しい工法、資材の導入を促進させ環境配慮に適した製品の提供を目指します。
- ⑦ グリーンマークのついた事務用品及び建設資材の環境配慮製品を使用する事を推進する。

(制定)2008年 8月 1日

(改定)2023年 4月 1日

静鉄建設株式会社

代表取締役社長 伊住 久

I 登録事業所の概要

1. 事業所名及び代表者

静鉄建設株式会社
代表取締役社長 伊住 久



2. 所在地

- ・本社 静岡県静岡市葵区末広町93番地
電話 054-272-2135 ・FAX 054-272-6572
- ・牛妻倉庫 静岡県静岡市葵区牛妻2714-1
- ・油山資材置場 静岡県静岡市葵区油山字吉田坪1630-1

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者: 落合孝之	担当者: 青島 茂
電話 054-272-2135	電話 054-272-2135
FAX 054-272-6572	FAX 054-272-6572
E-mail ochiai@shizutetsu-con.jp	E-mail aosimas@shizutetsu-con.jp

4. 事業内容

土木工事業・建築工事業・とび・土工工事業・鋼構造物工事業・ほ装工事業
しゅんせつ工事業・内装仕上工事業・造園工事業・水道施設工事業
解体工事業・さく井工事業
不動産売買及び仲介

5. 事業規模

資本金 100百万円
従業員 81名 (2024年3月時点)
売上高 6,479百万円(2023年4月～2024年3月)

工事内容	工事件数	備考
土木工事業	19	1,000万以上
建築工事業	14	3,000万以上
計	33	

上記以外の工事件数690件(土木工事:100件 建築工事:590件)
(66期受注件数)

6. 事業許可の内容

【建設業許可】

許可番号 : 静岡県知事許可(特定-3)第6243号
有効期限 : 令和3年6月6日から令和8年6月5日

【宅地建物取引業許可】

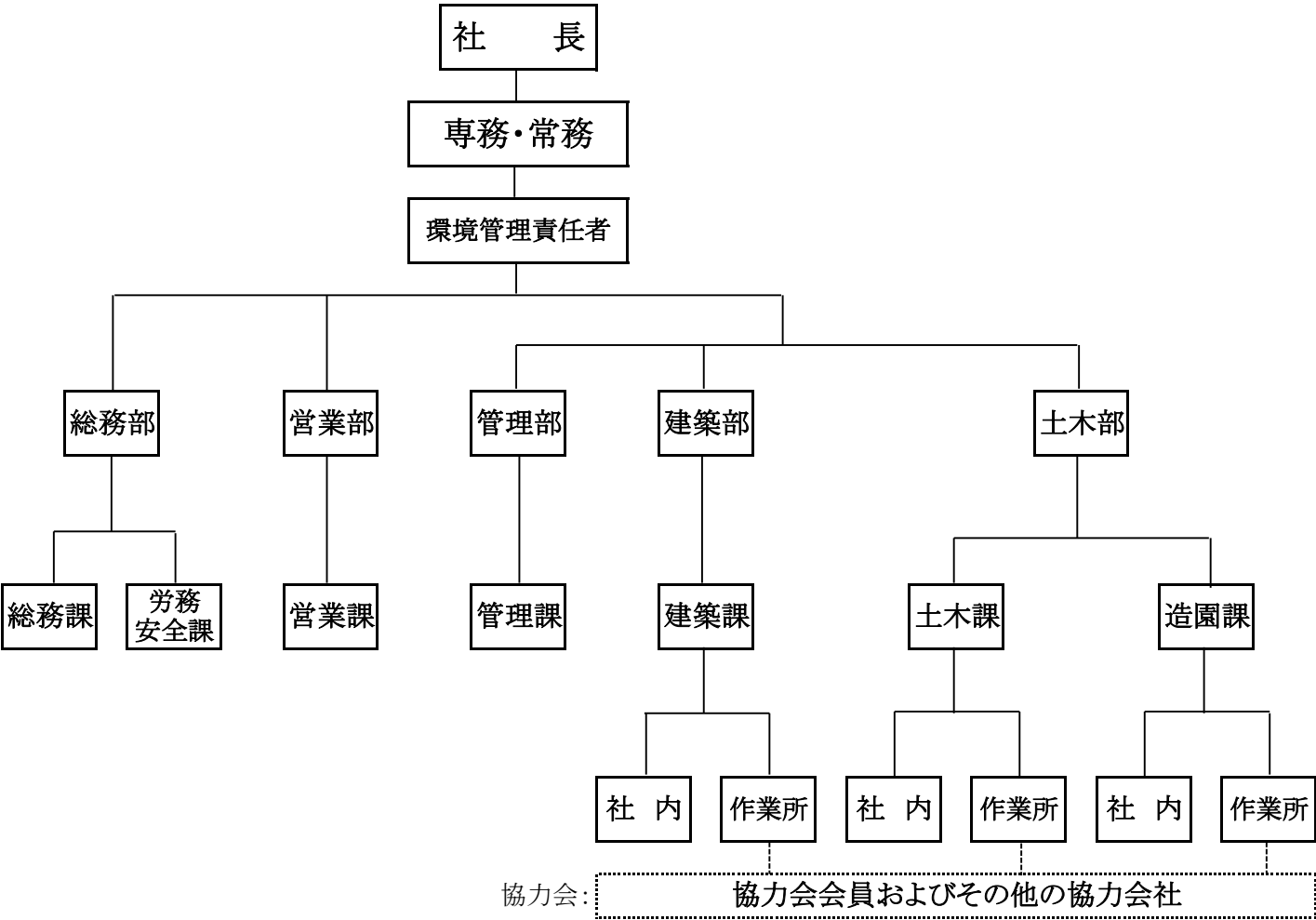
許可番号 : 静岡県知事許可(13)第3013号

7. 施設等の状況

- ・本社 事業所延床面積 686.62㎡ ・車両保有台数 14台
- ・牛妻倉庫 延床面積 351㎡ 敷地面積 908.47㎡
- ・油山資材置場 敷地面積 2,896㎡

8. 対象範囲

- ・本社、牛妻倉庫、油山資材置場



＜責任と権限＞

- | | |
|---------|--|
| 社長 | <ul style="list-style-type: none">・当社の環境経営システムに関する最高責任者・経営における課題とチャンスの明確化・環境方針の策定、見直し・環境管理責任者の任命・環境経営システムに必要な資源（人材・資金・技術）の準備と配置・環境経営システムの評価と見直しの実施・指示 |
| 専務・常務 | <ul style="list-style-type: none">・社長業務の補佐 |
| 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none">・環境経営システムの構築、運用、維持に関する実務上の責任者・環境経営システムの取組結果を代表者へ報告・環境経営レポートの作成・取組データの集計、取り纏め及び文書記録類の作成、管理・教育の実施 |
| 各 部 | <ul style="list-style-type: none">・各部門の環境経営システムの実施、維持・社員教育の実施・実施状況の確認、改善の実施 |
| 協力会 | <ul style="list-style-type: none">・安全衛生協議会への参加 |

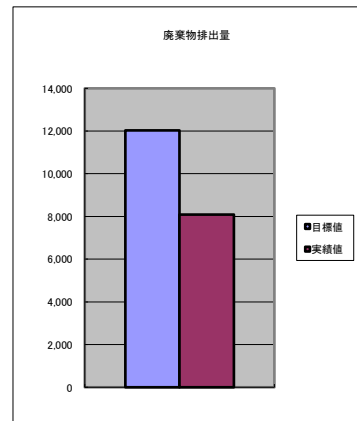
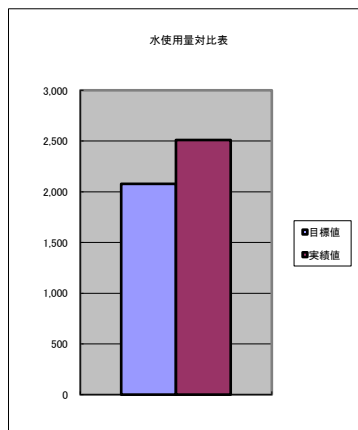
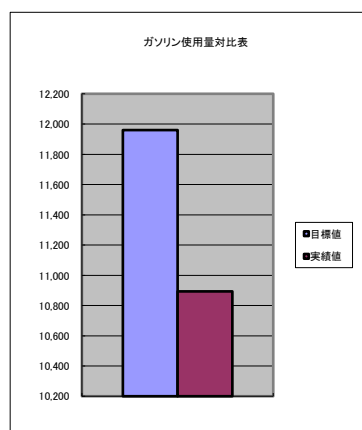
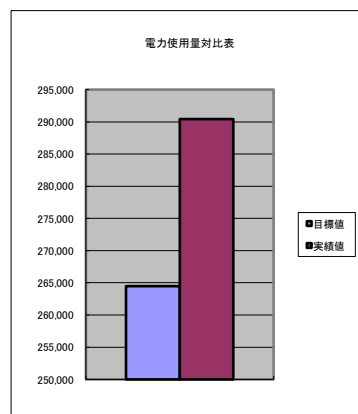
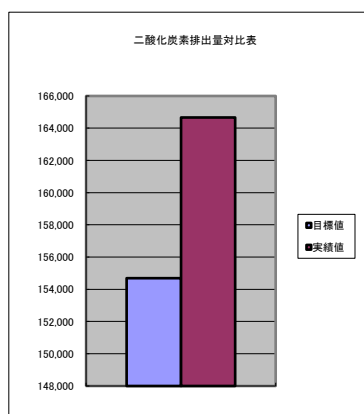
Ⅱ 環境経営目標とその実績(2023年度まとめ)

項 目	単位	2023年度	2023年度		実績と目標との差	削減率又は増加率
		基準値	目 標	実 績		
		過去3年平均	基準値△1.0%	(4月～3月)		
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	156,261	154,698	164,670	9,972	6.4%増
電力使用量	kWh	267,149	264,477	290,413	25,936	9.8%増
ガソリン使用量	ℓ	12,081	11,960	10,893	-1,067	8.9%減
水使用量	m ³	2,101	2,079	2,511	432	20.8%増
廃棄物排出量	t	12,152	12,030	8,085	-3,945	32.8%減
廃棄物再資源化率	%	95.00	—	94.40	—	—

「注:購入電力のCO₂排出係数は0.480kg-CO₂/kWh(平成28年度調整後排出係数)です。」

※基準年は3年に一度見直します。

※グリーン購入及び安全工事管理・苦情発生防止は数値目標の設定をせず取組みの推進を図ります。



Ⅲ 中長期環境経営目標 (2023年度～2025年度)

項 目	基準値(過去3年平均に対する) 削減目標値(削減率)				
	単位	2023年度	2024年度	2025年度	備 考
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	154,698 (基準値より△1%)	153,917 (基準値より△1.5%)	153,135 (基準値より△2%)	
電力使用量	kWh	264,477 (基準値より△1%)	263,141 (基準値より△1.5%)	261,806 (基準値より△2%)	
ガソリン使用量	ℓ	11,960 (基準値より△1%)	11,899 (基準値より△1.5%)	11,839 (基準値より△2%)	
水使用量	m ³	2,079 (基準値より△1%)	2,069 (基準値より△1.5%)	2,058 (基準値より△2%)	
廃棄物排出量	t	12,030 (基準値より△1%)	11,969 (基準値より△1.5%)	11,908 (基準値より△3%)	
化学物質の適正管理		適正な保護具の使用状況や作業方法、管理状況の確認を行う。			
グリーン購入		本社・作業所での事務用品、建設資材のグリーンマーク商品の購入に努める。			
安全で円滑な工事管理の推進と共に、環境上の苦情の発生を防止する		着工前会議(リスクアセスメント実施、予防処置の実施) 作業所で開催されている安全衛生協議会への参加(月1回)			

過去3年間の実績数値

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度	基準値 (3年平均)
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	157,058	149,263	162,464	156,262
電力使用量	kWh	269,715	249,156	282,577	267,149
ガソリン使用量	ℓ	11,894	12,788	11,563	12,082
水使用量	m ³	2,575	1,341	2,387	2,101
廃棄物排出量	t	7,725	14,855	13,877	12,152

主な環境経営計画

推進計画		施 策	担当部署	実施計画 2023.4.1～2024.3.31						備考
二 酸 化 炭 素 排 出 量	電力使用量の削減 (責任者:落合孝之) (担当者:青島 茂)	・昼休み・残業時に不要な照明の消灯	各部 現場							所長会議時に周知
		・未使用時に機器の電源は切る							→ 毎月の請求書より集計	
		・冷暖房機器は適切な温度で使用								
	ガソリン使用量の削減 (責任者:落合孝之) (担当者:青島 茂)	・車両毎に使用量の管理を行う	各部							所長会議時に周知
		・車両を定期的に点検整備を行う(オイル量、空気圧等)							→ 毎月の請求書より集計	
		・エコドライブを実施する(エコドライブ10の実施)								
水使用量の削減 (責任者:落合孝之) (担当者:青島 茂)		・水道を使用し終わった時には必ず蛇口を閉める	各部 現場							所長会議時に周知
		・水道配管からの漏水を定期的に点検をする							→ 毎月の請求書より集計	
廃棄物排出量の削減 (責任者:落合孝之) (担当者:青島 茂)		・作業所における廃棄物の分別を徹底	現場							
		・廃棄物の再使用、再生利用を検討する							→ 各現場巡回時確認	
		・梱包材の簡素化の推奨								
化学物質の適正管理 (責任者:落合孝之) (担当者:青島 茂)		・有害レベルに応じた管理を行う。	現場							
		・SDSの掲示又は備付ける。							→ 各現場巡回時確認	
		・適正な保護具の着用や作業方法を選定する。								
安全で円滑な工事管理の推進と共に、環境上の苦情の発生を防止する		・着工前会議で環境等に関するリスクアセスメントの検討、完成後会議にて検証する。	現場							→ 各会議開催時
		・作業所で開催されている安全衛生協議会への参加	現場							→ 工事期間中毎月実施

地域活動	本社周辺清掃	本社								年2回実施
	施工現場周辺清掃	現場								工事期間中毎月実施
グリーン購入	グリーンマーク商品(事務用品)の購入	各部・現場								購入努力
教育・訓練	必要に応じて教育訓練を実施	全社員								本社・各現場にて実施
	エコ検定取得	全社員								年2回実施

IV 環境経営目標の取組結果の評価

取組項目	2023年度目標	2023年度の取組結果	評 価
二酸化炭素排出量の削減	基準値から1.0%削減 (2023年度から新基準値に変更)	目標に対し6.4%増加、 前年実績比では1.3%増加した。	目標値の変更により増減率が増加方向に移動している。電気使用量が増加し、それに伴い二酸化炭素排出量が増加した。特に現場使用の電気使用量が増加している。今後も基本的な取り組みは継続していくと共に省エネ効果を検討していきたい。 評価は【×】である。
電力使用量の削減	基準値から1.0%削減 (2023年度から新基準値に変更)	目標に対し9.8%増加、 前年実績比では2.8%増加した。	目標値の変更により増減率が増加方向に移動している。本社の使用量は削減しているが、現場の使用量が増加し、全体として増加した。現場の使用量については工事量・工事内容により増減するが、節電に努め、本社のエアコン設定温度管理、昼休みや不要時の消灯等の基本的な取り組みの継続、実施状況の確認を行い削減に努めたい。 評価は【×】である。
ガソリン使用量の削減	基準値から1.0%削減 (2023年度から新基準値に変更)	目標に対し8.9%削減、 前年比では5.8%削減した。	昨年度同様に県内東・西部地区への営業活動は継続して行われているが、ガソリン使用量は目標値、昨年度実績比共に減少している。今後もエコドライブの周知や遠方へ営業へ行く時は相乗り等を行い削減に努めたい。 評価は【○】である。
水使用量の削減	基準値から1.0%削減 (2023年度から新基準値に変更)	目標に対し20.8%増加、 前年比では5.2%増加した。	目標値の変更により増減率が増加方向に移動している。現場規模等により使用量が変化してしまうが節水に取り組み、今後も現場担当者工夫できることがないか検討を継続し、使用量の削減に努めていきたい。 評価は【×】である。
廃棄物排出量の削減及び再資源化率	基準値から1.0%削減 (2023年度から新基準値に変更)	目標に対し32.8%削減、 前年比では41.6%削減の排出量になっている。	2022年度に比較して解体工事が2件少なかったため前年の排出量より削減出来ているのだと思われる。工事内容により排出量が変わるが、分別の徹底や建設資材の再利用、材料の適正仕入れ等基本の減量化に努めていきたい。再資源化率は昨年度と変わらないが、この数値を維持できるように廃棄物の細かい分別に努めていきたい。評価は【○】である。
化学物質の適正管理	定期的に保護具の使用状況や作業方法・管理状況の確認を行う。	現場巡回パトロール時に保護具の使用状況や作業方法、管理状況の確認 改善事項0件	有害レベルに応じた保護具の着用、管理がされており、SDSの掲示又は備え付けが確認できた。今後も化学物質を使用する際の作業方法や管理方法について確認・指導を行っていく。評価は【○】である。
安全で円滑な工事管理の推進と共に環境上の苦情の発生を防止する	・各工事の着工前会議において、安全・品質・工程に関する協議と共に、期間中の苦情発生に対する予防処置について検討し、完成後会議にて検証を行う。	・着工前会議・完成後会議の議事録で検証されている。 ・予防処置シートにて確認している。 ・日々のリスクアセスメントで実施されている。	着工前会議上で施工・環境上のリスクについて検討されている。日々の作業に対するリスクアセスメントも実施されている。完成後会議時には取り組み内容の検証もされている。各作業所の周辺状況に応じて環境上の問題点を把握し、取り組みを実施している。評価は【○】である。今後も予防処置シートの活用による施工・環境上の検討・検証を促進していきたい。また来期では作業所環境目標設定を推奨していきたい。
グリーン購入の推進	・本社や作業所の事務用品、建設資材についてはグリーンマーク商品の購入に努める。	・本社や作業所の事務用品については着実に広まっている。	・本社及び作業所で使用している事務用品はグリーンマーク商品の使用が増加している。建設資材の購入は継続して推進を図っていく。評価は【○】である。 ※現状維持に努める。
総評	2023年度から目標値を変更したため目標値に対する増減率が数値化している5項目の内3項目が増加となっている。工事内容・規模により実績値が大きく変動するが、目標値に近づけるための活動を実施している。 環境管理責任者:落合孝之		

評価基準

【○】: 目標、前年比とも減少の場合
【×】: 目標、前年比とも増加した場合

【△】: 目標、前年比どちらかが減少の場合

V 環境経営活動・ボランティア活動の記録 (2023年4月1日～2024年3月31)

- 1 (一社)静岡建設業協会が実施した河川美化活動(二級河川巴川)に参加し、堤防の草刈り等の清掃活動を行いました。(2023年6月7日)
- 2 高校生現場実習(インターンシップ)において、科学技術高等学校の生徒を受け入れ、3日間作業所において現場実習を行いました。(2023年7月25日～7月27日)
- 3 (一社)静岡建設業協会が実施した『道の日』に行う、静岡市職員との道路美化活動(2023年8月8日)
- 4 第21回安倍川流木クリーンまつりに実行委員会のメンバーである(一社)静岡建設業協会の一員として参加し、流木拾い等の清掃活動(2023年11月19日)
- 5 当社が地域社会奉仕活動の一環として継続して実施している静岡市葵区末広町内の道路清掃を実施し草刈り、側溝等の清掃活動を行いました。(2023年4月・11月)
- 6 各工事作業所にて月に1回以上の頻度で作業所周辺の公共施設(公園等)、道路等の清掃を軸に地域社会貢献活動を実施しています。(2023年4月～2024年3月)
- 7 本社にてエコキャップ回収ボックスの設置

※高校生現場実習(インターンシップ)の実施



※本社周辺清掃状況



※エコキャップ持ち込み



※回収会社:環境のミカタ株式会社

VI 次年度の取組内容

取組項目	2023年度の取組結果	2024年度の取組内容
二酸化炭素排出量の削減 (責任者: 袖山高明)	目標に対し6.4%増加、前年実績比では1.3%増加した。	・エコドライブの実施。(資料:エコドライブ10の周知) ・連絡は電子通信を用い、車両の使用を削減する。 ・定期的に取り組の成果を確認し、見直しを行う。 ・重機は低排出ガス仕様を標準とし、超低排出ガス仕様を導入する。
電力使用量の削減 (責任者: 袖山高明)	目標に対し9.8%増加、前年実績比では2.8%増加した。	・不要時の照明の消灯確認、及び昼休みの減灯を行う。 ・パソコンの電源、OA機器の省電力モードの管理を行う。 ・エアコン設定温度の確認、その日の気候に応じて設定を行う。 ・各作業所への周知徹底、及び訪問時に確認を行う。 ・定期的に取り組の成果を確認し見直しを行う。
ガソリン使用量の削減 (責任者: 袖山高明)	目標に対し8.9%削減、前年比では5.8%削減した。	・エコドライブを実施する。(資料の配布等でエコドライブを周知する) ・各車両の燃費モニター・使用簿にて、ガソリン使用量・燃費等の確認を行う。 ・作業所から本社への連絡は電子通信を用い、走行量を削減する。 ・車両入れ替え時は低燃費車等の検討を行う。 ・定期的に取り組の成果を確認し、見直しを行う。
水使用量の削減 (責任者: 袖山高明)	目標に対し20.8%増加、前年比では5.2%増加した。	・水栓の開閉管理を周知・徹底する。 ・配管の定期検査を実施する。 ・各作業所の使用量の確認を定期的に行い、必要に応じ見直しを行う
廃棄物排出量の削減 (責任者: 落合孝之) (担当者: 青島茂)	目標に対し32.8%削減、前年比では41.6%削減した。	・廃棄物の分別管理をなるべく多品目で行う。 ・廃棄物の再使用、再利用を出来るだけ検討する。(3R活動の推進) ・無駄をなくし、廃棄物削減に会社全体で取り組む。 ・定期的な排出量を確認し、必要に応じて見直しを行う。 ・梱包材削減や持ち帰り推奨する。
化学物質の適正管理 (責任者: 落合孝之) (担当者: 青島茂)	・適正な保護具の使用状況や作業方法、管理状況の確認を行う。	・作業所で適正に管理が行われているか確認を行う。 ・作業方法や保護具が適正か確認をする。 ・SDS(安全データシート)の掲示状況を確認する。 ・解体、改修の際の石綿事前調査を実施する。
安全で円滑な工事管理の推進と共に環境上の苦情の発生を防止する	・休業4日以上労働災害の発生件数=0件 ・騒音、振動、ほこり等の苦情で本社が対応した件数=3件	・着工前会議で工事全体のフローを確認し、改善や予防策について検討を行う。 ・工事の進捗に併せて日々、全業者職長参加の安全衛生協議会を実施し、作業安全管理の検討、指示を行う。 ・工事完成後会議を行い、予防策等の検証を行う。改善点については次の工事に反映させる。
グリーン購入の推進	・事務用品、建設資材についてはグリーン購入に努める	・本社、作業所の事務用品、建設資材はグリーンマーク商品の購入に努める。 ※現状維持に努める。

VII 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

該当する法規の種類	該当する法規・条例・規制等	チェック項目	遵守項目
廃棄物処理 リサイクルに関する法規	廃棄物処理法 建設リサイクル法、再生資源利用省令 指定副産物利用促進省令 容器包装リサイクル法 廃PCB処理法(改正PCB特別措置法) 建設廃棄物処理マニュアル 建設副産物適正処理推進要綱 建設汚泥の再生利用に関するガイドライン等 建築物の解体等に係る 石綿飛散防止対策マニュアル 水銀使用製品の適正処理	官公庁届出 産廃委託契約 管理票発行 管理票管理 マニフェスト年 間交付状況報 告 多量排出(1000 t以上/年)事業 者報告 近隣対策 他	適 正 (2024/3/31)
大気汚染に関する法規	大気汚染防止法、オフロード法、オゾン層保護法 フロン排出抑制法(①廃棄時は回収破壊処理 ②フロン漏洩防止簡易点検) 建築基準法、ダイオキシン特措法 廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類 ばく露防止対策要綱 廃棄物焼却施設解体作業マニュアル 排出ガス対策型建設機械普及促進規定 建築物石綿含有建材調査	官公庁届出 官公庁検査 近隣対策 簡易点検表 事前調査書 他	適 正 (2024/3/31)
騒音・振動に関する法規	騒音規制法、振動規制法 悪臭防止法、騒音(県、市条例)	官公庁届出 近隣対策 他	適 正 (2024/3/31)
水質汚濁に関する法規	下水道法、河川法、浄化槽法、水質汚濁防止法	官公庁届出	適 正 (2024/3/31)
土壌汚染に関する法規	土壌汚染対策法 セメント及びセメント系の固化材を使用した改良土 の六価クロム溶出試験実施要領 薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫 定指針 指定区域以外の土地から排出される汚染土壌の 取扱い指針 土壌環境基準(環境基本法) 地下水の水質汚濁に係る環境基準(環境基本法) 静岡県盛土等の規制に関する条例	官公庁届出 試験結果	適 正 (2024/3/31)
その他関連法規	労働安全衛生法、消防法(危政令) 高圧ガス保安法、工場立地法、大店立地法 火薬類取締法、景観法、自然環境保全法 都市緑地法、化管法、静岡市みどりの条例 種の保存法、鳥獣保護法 エネルギー使用合理化法 建設工事公衆災害防止対策要綱(建築・土木) 学校環境衛生基準マニュアル 作業所で同意するその他要求事項	官公庁届出 労災事故対応 有資格者就労 近隣対策他	適 正 (2024/3/31)

2. 関連機関からの違反・訴訟は過去3年間ありませんでした。

2024年3月31日 環境管理責任者 落合 孝之

VIII 代表者による全体の評価と見直しの結果

今年度の取組結果は数値化している5項目中3項目、二酸化炭素排出量と電力使用量、水使用量の削減が目標値を達成できませんでした。

二酸化炭素排出量では目標に対して1.0%削減のところ6.4%増加、購入電力量では目標に対して1.0%削減のところ9.8%増加、水使用量では目標に対して1.0%削減のところ20.8%増加と大きく増加となりました。

理由としては二酸化炭素排出量では70%程度、電力使用量では66%程度、水使用量では40%低減した目標値に変更したことによります。昨年度比では最大5%程度の増加となっており、ガソリン使用量の削減については目標に対して1.0%削減のところ8.9%減少、廃棄物排出量については大型の解体工事もあり目標に対して1.0%削減のところ32.8%減少となりました。

各項目毎、評価・検討されているが、受注産業である建設業では受注工事の件数・場所・規模工事内容等により数値が大きく左右される部分がありますが、エコアクションの趣旨をよく理解し必要な環境活動を積み重ねていければと考えています。

化学物質の適正管理、安全で円滑な工事管理の推進とともに環境上の苦情の発生を防止するについては現場巡回パトロールや各会議、リスクアセスメントにより管理を行っています。

グリーン購入については本社や各作業所でグリーンマーク商品の購入の推進に取り組んでいます。昨年度から取り組み始めたエコ検定の取得を今年度も進め、より環境への意識を高めていきます。また、ボランティア活動においては様々な地域貢献活動へ参加をしています。全社員・協力会社が常に環境に対する意識を持ち、事業に取り組んで行くことが当社の発展に繋がります。

エコアクション21の活動に積極的に取り組み、今後も環境負荷の低減や環境保全に貢献していきます。

・環境経営方針	・改訂の必要なし
・環境経営目標	・改訂の必要なし
・環境経営計画	・改訂の必要なし
・実施体制	・改訂の必要なし
・環境経営システム	・改訂の必要なし

2024年7月1日

静鉄建設株式会社

代表取締役社長 伊 住 久